

産 業 建 設 常 任 委 員 会 会 議 録

〔平成22年 4月14日開催〕

南 あ わ じ 市 議 会

産業建設常任委員会会議録

日 時 平成22年 4月14日
午後 1時00分 開会
午後 2時45分 閉会
場 所 南あわじ市議会委員会室

I. 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

出席委員（6名）

委 員 長	廣 内 孝 次
副 委 員 長	阿 部 計 一
委 員	原 口 育 大
委 員	印 部 久 信
委 員	森 上 祐 治
委 員	砂 田 杲 洋
議 長	川 上 命

欠席委員 なし

事務局出席職員職氏名

事 務 局 長	瀧 本 幸 男
次 長	阿 閉 裕 美
課 長	垣 光 弘
書 記	川 添 卓 也

説明のために出席した者の職氏名

副 市 長	川 野 四 朗
産 業 振 興 部 長	水 田 泰 善
農 業 振 興 部 長	奥 野 満 也

都 市 整 備 部 長	野 田 博
下 水 道 部 長	道 上 光 明
産 業 振 興 部 次 長	山 下 達 也
農 業 振 興 部 次 長	神 田 拓 治
都 市 整 備 部 次 長	山 田 充
下 水 道 部 次 長	松 下 修
産業振興部商工観光課長	興 津 良 祐
産業振興部企業誘致課長	北 川 真 由 美
産業振興部水産振興課長	早 川 益 弘
農業振興部農林振興課長	太 田 孝 次
農業振興部農地整備課長	大 瀬 久
農業振興部地籍調査課長	原 口 幸 夫
農業振興部農業共済課長	松 本 安 民
都市整備部管理課長	和 田 幸 三
都市整備部建設課長	赤 松 啓 二
都市整備部都市計画課長	森 本 秀 利
下水道部企業経営課長	江 本 晴 己
下水道部下水道課長	山 崎 昌 広
上下水道部下水道加入促進課長	喜 田 展 弘
次長兼農業委員会事務局長	竹 内 秀 次
国 民 宿 舎 支 配 人	北 川 満 夫

Ⅱ．会議に付した事件

1．所管事務調査について……………	4
① 産業振興の推進について	
② 農業振興の推進について	
③ 都市整備事業の推進について	
④ 下水道事業の推進について	
⑤ 農業委員会に関すること	
2．その他……………	3 6

Ⅲ．会議録

産業建設常任委員会

平成22年 4月14日（水）

（開会 午後 1時00分）

（閉会 午後 2時45分）

○廣内孝次委員長 皆さんこんにちは。

花博の影響で観光客が増えていますけども、6月から高速道路の料金改定ということで、観光客の激減が心配されています。

本日は、新の執行部の皆さんにこれから1年間またご協力をいただきまして、委員会を活性化しながらやっていけたらと思っております。

本日はこの後、3時までで一応、予定を打ち切りまして、4時10分のジョイボートの船に乗りまして、観光資源であります、渦潮を見学して、視察したいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、ただいまより産業建設常任委員会を開催します。

それではまず最初に今日の出席の件ですが、阿部副委員長が少し遅れるということでございます。

それと市長が公務のため、欠席ということでありますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは副市長、ご挨拶よろしくお願い致します。

○副市長（川野四朗） 皆さんこんにちは。

先ほど委員長からもお話がありましたように、新しい年度が入りまして、初めての委員会でございます。私どもも人事異動をやらせていただいて、新しい陣容でこの産業建設常任委員会に望んでおるわけですが、まずは今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

先ほど委員長からもお話があったんですが、これから本四道路の新たな料金制度導入という問題が出てまいりましたが、過日、4月8日でありましたが、淡路3市で緊急の要望に行って参りました。

市長が慰霊祭があったので、私が代わって行かせていただいて、他の2市の市長さん、あと2市の議長さんとも同行しながら要請に行って参りました。

民主党には、阿久津副幹事長に面談をさせていただいて、要望したところでございます。そのほか、国土交通省の大臣、副大臣、政務官、そのほか、高級官僚のところにも要望

書を持って上がったわけですが、結果的には次の日に、もうすぐに発表されるというようなことでございました。

その内容も非常に我々にとっては納得しがたいような結果でありましたので、非常に落胆をしておるところでございますが、今後も淡路3市、力を合わせてこの問題に取り組んで行こうということにいたしておりますので、まずはご報告を申し上げておきたいと思います。

それからもう1つは、この月曜日、4月12日、雨が降っておったのですが、結構な量でございました。

トータルは100ミリを超したのですが、水防指令が午前11時過ぎに出まして、その対応で、私どもも警戒態勢を敷いたわけでございますが、午後の5時30分ごろだったと思いますが、水防指令が解除して事なきを得たわけですが、今年はどうも雨が多そうだなあというような感じをいたしております。

またこれから梅雨、それから台風期に入りますので、我々のほうも災害対応には力を注がないといけないなあということを実感しておるところでございますが、これから一つ万全を期してまいりたいと思いますので、どうかよろしく願いをしたいと思います。

今日は所管事務調査ということで、管内の観潮船にもお乗りになるということでございます。またよろしく願い申し上げまして、冒頭のご挨拶にさせていただきます。

○廣内孝次委員長 それでは執行部が新メンバーになりましたので、自己紹介をさせていただきますと思いますので、どちらからか、前から順にお願いします。

(執行部自己紹介)

○廣内孝次委員長 ありがとうございました。

それでは、所管事務調査に入りたいと思いますけども、阿部副委員長が遅れて出席していただきました。

所管事務調査ですけども、お諮りしたいと思うのですが、1番から5番まで、1番、産業振興の推進について、2番、農業振興の推進について、3番、都市整備事業の推進について、4番、下水道事業の推進について、5番、農業委員会に関することと、5点ありますが、これを一括で取り扱うことにしまして、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○廣内孝次委員長 それではそのようにさせていただきます。

それではただいまより、所管事務調査ということでよろしくお願いします。

質疑はございませんか。

印部委員。

○印部久信委員 副市長に先ほどのお話の続きをまず聞きたいのですが、我々からしますと、高速道路料金の発表前日に陳情に行くという、極めて遅きにしいした動きであるというふうに思うんですね。

この点についてお聞きしたいのと、それと高速道路料金というものは、今、新聞テレビ見ていますと、試験的にやっているという部分も結構あるようなんですが、この料金が本四高速道路について、上限3,000円ということになったわけなんですが、これまでの流れとしまして、観光客の方々は淡路島を通るのか降りるのか、四国のほうに行っているのかというのはともかくとしまして、この料金がこのようになったということで、観光客の流れ、特に夏場の観光客の流れが、太平洋側から日本海側へ大きく人の動きが変わるのではないかということを観光業者は大変危惧しているわけですね。

この辺について、まず副市長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

○廣内孝次委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） 緊急要望の時期の話でございしますが、知事さんが前の前の日に行かれて、それまでは我々もこれだけ早く発表するということは予想もしていなかったことでして、知事さんが行かれて徳島の知事さんで行かれたんですが、行って発表が近いぞというような感触を得たようでありまして、帰ってきて淡路のほうからもひとつ要望をしてほしいという要望があって、急遽8日に行くということになったわけでございます。

ここまで早くというのは誰も考えていなかったのではないかなあという思いはいたします。

それと行った感触ですが、試験的に実験的にやるということも言われていました。阿久津副幹事長は皆さん方の要望は無料化という方向に向かって我々の尻をたたいておるの

だと受けとめますというご返事をいただいたのですが、なかなか一旦やり始めるとどう
いうふうになるのか、非常に難しい話だと思います。

それともう一つは県のほうもそうですが、私どもも料金の話と、もう一つはフェリー会
社の救済という２本立てで要請をしておるわけなんです、国交省の技官の方、それと
もう一つは高速道路課長から言われたのは、それは淡路にとって２つはとても無理
やでと。どっちかに軸足を置いて、要請をしていただかないと、料金は下げろ、フェリ
ーは助けなさいと、ということでちょっと気がよすぎるんじゃないかというご意見もい
ただきました。

そこら辺は今後、考えて行かなければいけないのかあという思いも致しますし、高速道
路課長なんかは、フェリーには、橋の開通時、４００億円ほどの補償をしてあるんやと
いうふうなことも言われておりましたので、非常に厳しい問題かなあということを思い
ます。

それと先ほど心配していたように、淡路は結果的には２，０００円区間と、３，００
０円区間。淡路に来るだけだったら３，０００円じゃないんですけども、２千数百円ぐら
いになるんでしょうけど、３，０００円近い金額。ですから５，０００円かけないと淡
路に来られない。

京阪神の人が日本海側に行くときは、無料の区間もあって、ほとんど１，０００円もか
からないというふうなところと、なかなか太刀打ちができないなあというのは、この間
の陳情でも申し上げておったんですが、民主党政権は、観光立国ということで、観光に
力を入れるというお話なら、淡路のこの観光の状況をつぶさに見て欲しいということを
強く申し上げて要望にいったわけですが、本当に今後、６月以降になればどのような
っていくか、本当に苦しい状況が続くのではないかというふうに感じます。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 これ副市長、今副市長言われたように淡路は高速料金も下げろ、フェ
リーのほうの救済もしろというように、相反することを主張しているのは私も理解しま
すがね、しかし、考え方によって高速料金のほう、まず国のほうで今まで道理、あるい
は減額してもらおうと。フェリーのほうはフェリーのほうで、国ができないのであれば、
観光のためにはですね、ある程度県とか市がある程度の補助を出して、そっちは県と市
でやると。高速道路は国でやるというように、それはそんな考え方もあると思うんです

ね。

それと、やっぱり今頃行ってもどないもしかたがないのですが、陳情に行ったときは、すでに答は印刷されていたということですね、そんな子供だましみたいな陳情をやってですね、行ったときには印刷できて、明日発表するというときに、陳情してもこれは形式的に行ってきただけのことであって、これは済んだことは済んだことでいいのですが、とりあえず副市長、関係団体でもう少し、国との情報を取って速やかな対応をしていくように今後、やってもらわないと、わずか何百円、何千円の高速道路料金が上がっただけと我々思うのですが、観光客というものはそのことによって動きが大きく変わって観光業者が大きな被害を受けるということは十分分かっていると思うのですが、今後、ひとつよろしくお願ひしたいということです。

○廣内孝次委員長 他に質疑ございませんか。
印部委員。

○印部久信委員 先般、鳴門海峡で船舶事故があったわけですが、おおむね新聞報道などでおおかた私も理解しておるのですが、この辺のことについて、詳しくいっぺん、担当課長、状況を最後の処理に至るまでについて、お話を聞かせてほしいと思います。

○廣内孝次委員長 水産振興課長。

○水産振興課長（早川益弘） ただいまの質問ですが、3月28日、日曜日の午前0時14分に日進丸、4人乗りの199トンと、アウトセイリング9という貨物船同士が鳴門海峡の橋の下で衝突事故を起こしました。

そして日進丸が沈没し、日進丸に搭載されていたA重油が流出したというのが事故の詳細でございまして、そのA重油が流出したことによって、今、のり養殖、わかめ養殖が今、南あわじ市の管内で営なまれているわけなんです、その被害が心配されました。

それでわかめの方は被害がなしというようなことでよかったんですが、北西水産、阿万の沖で養殖されています北本さんのところののりの一部に重油がかかったということで、北本さんを含め、前田会長、漁連、協議致しまして、かかったのは一部ですが、今しているのりの養殖の全部を処分しようという結論になりました。

そうした結果、この処分はどうするかという問題になりまして、2年前に明石海峡でも衝突事故がありまして、いろいろ問題になりましたけども、のりを陸上のほうにほりあげて、乾燥させ、水分を飛ばしておがくずを混ぜて焼却処分しようかと、いろんな協議をした結果、最終的に製品にして、売れるような販売できるような製品にして、箱詰めして、それを焼却場に持って行って処分しようということで、日進丸、アウトセイリングの保険屋とも協議して、そういう結論となり、生活環境課、市長、副市長にも次の日の29日に組合長、漁連ともに要望に行きまして、一般廃棄物処理手数料減免申請書というのを北本さんに上げていただいて、処分を行いました。

以上がざっとしたことですが、そういう経過報告になります。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 被害額に対しては、保険会社からそれは補償するということなんですが、これは推定被害額はどれぐらいになるんですか。

○廣内孝次委員長 水産振興課長。

○水産振興課長（早川益弘） 私はのりの養殖のことは詳しくないのですが、のりは刈り取って、それを製品にする。今、北本さんが作っている分が、210m×67mのものが1はりとしますと、それが13はりございます。

そういった関係で、順次刈り取って行って、その間に次のところに刈り取っていく、順番に行く間に前のものが伸びてくるというようなことで、その繰り返しを行っているというようなことで、金額的には推定なんですけど、2,000万円ぐらい、すべてのものを含めて2,000万円ぐらいでないかと。これは約でしかいえません。

ただ今回の被害に遭って処分したのは、1箱3,600枚入りの箱が85箱と半分、85.5箱分があります。その分を去年ののりの1枚当たりの単価8円としますと、24万2,400円ですか、それになるんですけど、それは今回の1回全部を処分した分で、あと何回か刈り取りますので、その費用なり、のり網の費用、手間なり、そういうのを含めますと、金額のほうでざっとしたことで申し訳ないのですが、2,000万円ぐらいでないかと推定されます。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 その推定 2, 0 0 0 万円ぐらいの被害というものは、保険会社が満額支給というようになるんですか。

○廣内孝次委員長 水産振興課長。

○水産振興課長（早川益弘） これは保険屋さんがまず、29日の日に、まず日進丸の船舶の方の保険屋のほうに来ました。それは当然、沈没した日進丸のほうから重油が漏れていますので、まずそこが調査に着きました。

それで4月に入ってアウトセイリング9の保険屋さんがやって参りました。そういうことから保険屋さん同士の船のほうのどちらが原因で、衝突した原因がどちらにあるのかということがまだ分かっていませんし、そこらのことで、保険屋さんがどれだけ保険が下りるかということは今のところは不明でございます。

ただどちらの船舶にしましても、保険に入っている金額が少ないということだけはこちらのほうに情報として入ってきております。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 それと新聞によりますと、市の方で3万数千円の持ち出しで処理をしたということが書いてあったのですが、この3万数千円でどの部分を市が処理したんですか。

○廣内孝次委員長 水産振興課長。

○水産振興課長（早川益弘） 先ほど言いました製品化して水を飛ばしてしなければ処分できないような状態でございますので、のりというのは陸上に放置しますと、3日もすると、とても近くにおれないというような異臭を放ち、とても近所迷惑になりますので、製品化した85.5箱分を焼却場に持って行って処分する費用でございます。

正確に言いますと、85.5箱分ですと、1,360キログラム。10キロあたり、160円ですので、21,760円を市の方で緊急ですので、減免申請のほうで、全額免

除ということで対応させていただきました。

○廣内孝次委員長 他に質疑ございませんか。

阿部副委員長。

○阿部計一副委員長 関連になるのですが、この日進丸というタンカーはA重油であったということは不幸中の幸いであったと思うんですね。

それとこれは満タンであったんですか、から船だったんですか。その状態は分かるんですか。

○廣内孝次委員長 水産振興課長。

○水産振興課長（早川益弘） ちょっと満タンとか、どうかというのは分からないのですが、海上保安庁の報告によりますと、1.5キロ搭載ということだけこちらのほうに情報として入ってきております。

○廣内孝次委員長 阿部副委員長。

○阿部計一副委員長 1.5キロということは、空船であったと思いますわね。だから沈没したときに機関室の油とか、そういうものが流出したのではないかと。

それでないと、もし満船の状態で沈没したのであればね、これまた2次災害ということが絶対可能なことになるし、大変なことになるんでないかと思っておったんですが、1.5キロということは、わずかな量だと思いますので、その辺課長の、満船の状態で航行していたのか。1.5キロというのはね、製油所に持って行ってあげた時点でそれぐらいの油が残るといえるのがありますから、その辺のことははっきりとまだ分からないのですか。

○廣内孝次委員長 水産振興課長。

○水産振興課長（早川益弘） 本庁のほうから1.5キロ搭載というような情報が保安庁のほうから入ってきて、保安庁のほうで、その28日の午前0時14分に発生してか

ら、油の拡販を防ぐあれが出ておりました。

ただ、それから海上保安庁の追加の報告によりますと、油の量、その海上に出ている油の量が少しずつ点在している程度で、その範囲もAからDまであるんですが、Dランクで、きわめて少ないというようなことで沈んだ沈没船のほうからも、潮流の向きによって、なんぼか出てくるけど、それも見受けられないということを聞いておりますので、量的には、はっきりしたことはいえませんが、少なかったのが幸いしたのかなと感じております。

○廣内孝次委員長 阿部副委員長。

○阿部計一副委員長 これも当然結構ですけども、念のため、保安庁に問い合わせして、どういう状況であったのかということを確認する必要があると思います。

もしいっぱい積んでいた状況であれば、またいつか油が出てくる可能性が必ずありますのでね。1級のタンカーといたら、それでも満タンにしていたらすごい量になると思うので。これA重油でよかって、B重油だったら大変な被害になっていたと思います。

それと、委員長、もう一つ。

副市長、これたこフェリーの各3市からの補助金というのがいっていると思うのですが、これいくらっているんですか。この前、400万円とかなんとか言っていましたけども、私の聞き違いですか。

○廣内孝次委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） 補助金は今までいってなかったのです。

今回の本四道路の1,000円ということで、たこフェリーも非常に苦戦しているということで、航路の協議会を立ち上げてなんとか支援して欲しいと。国の方に要望したり、国のほうでの補助金もいただけるようなんですが、その補助金をいただくには、地元の市からも、地元負担金みたいなものを必要だということで、今、ちょうどその協議会で詰めておるところです。

まだ南あわじ市として、出すという約束はいたしてありませんが、出さざるを得ないのかなあというところですよ。

○廣内孝次委員長 阿部副委員長。

○阿部計一副委員長 これも賛否両論あって、海運業界いろいろ。淡路フェリーなんかはそういう補償金で会社の方針として、ぱちっと打ち切ってやったと。

相手の方は補償金をもらいながら、今そういう市民の人からいろいろなことを考えてやられておるということで、これやっぱりこの問題は慎重にやらなくては、橋はなるほど安くしてもらうにこしたことはないけども、両方ともいくということはね、とてもじゃないけど、そんなことは通らないと思いますわ。

その辺やっぱり、行政として介入してやるのであればね、一旦補償金をもらって、やった。片やそういうことを決断してやめていっているところもあるんですから、その辺のことをきっちりけじめをつけていかないと。

やっぱりいろいろ両方ともやってやったらいいいという人もいますが、特に海運業界全般的な意見としてはそういう厳しい意見もありますので、参考にしていただきたいなど。答弁結構です。

○廣内孝次委員長 他に質疑ございませんか。
森上委員。

○森上祐治委員 3月議会でも一般質問でお聞きしたのですが、途中経過ということで明確な答弁をいただけなかったのですが、冬場ですね、有害鳥獣対策の成果について、どういうふうな結果が出たのかお尋ねしたいと思います。

○廣内孝次委員長 農業振興部次長。

○農業振興部次長（神田拓治） 鹿の猟期なんですが、11月15日から2月の末までの間を1頭に1,000円の補助を出しまして捕獲しております。

243頭鹿を捕獲しております。

ということになりますと、1年間で有害鳥獣の関係の鹿、猟期以外の分を合わせて、年間で588頭の鹿を捕獲しております。

○廣内孝次委員長 森上委員。

○森上祐治委員 この年間で588頭捕獲するというようなことなんですけども、この588頭を1年間に減らしていくということは、今後の見通しとしてはどういう見解をお持ちなんですか。

○廣内孝次委員長 農業振興部次長。

○農業振興部次長（神田拓治） 私も今実態がどんだけ生存しておるのかというのを確認すべきが一番義務だと思うのですが、県の機関として、森林動物研究センターの方が11月頃、現地に入って、生息状況を推測していただいているわけなんですけど、この間委員さんも報告されておりましたとおり、だいたい適正頭数が1,000頭ぐらいであろうと、現在が1,500頭から2,500頭ぐらいいるのではないかという情報と、机上で出しているいろんな方面の情報を見れば4,000頭ぐらいいるのではないかというように言われています。

ですから今実態が、私もこの1週間で過去どのような状況になっておったのかということ調べさせていただいたら、平成9年から去年まで13年間で、捕獲頭数なんですけど、鹿が2,032頭捕獲しております。イノシシで643頭。ということになれば、年間600頭近く鹿を捕っていくということになれば、今後どのような捕獲頭数を目標にしなければいけないのかということのも今後、いろんな協議会がありますので、このへんで検討していきたいと思っています。

○廣内孝次委員長 森上委員。

○森上祐治委員 今回、神田次長始めて執行部のほうでですね、農業振興部で有害鳥獣対策担当という役職付きで次長になられたと。我々市民としても期待しているのですが、年間600頭ずつということで13年間きたと。

ところが、現実にごっつい年々被害が増えている。最近特にここ数年見ていたら、我々非農家の人間でも、これ大丈夫かなあというような認識を持っているんよな。

一つお聞きしたいのは、この1頭に1,000円うんぬんで頑張って捕獲してくださいよということを猟師さんをお願いしてですね、今回動いたと。それに対する農家の人々のこの冬場の鹿の被害の状況について、なんか振興部としてお聞きしていますか。

○廣内孝次委員長 農業振興部次長。

○農業振興部次長（神田拓治） 4月に入って1団体が鹿の被害を受けたということで、毎年事業でやっている柵ですね。柵の要望が上がってきています。

昨年度、柵を12km設置しております。

今年度も今現在、要望が上がってきているのが、9地区で10kmぐらい上がってきています。

これについては、対応、予算化もしておりますので、対応していけると。

今後、要望が増えてくると思います。それについて、前向きに検討していきたいと思っています。

○廣内孝次委員長 森上委員。

○森上祐治委員 神田次長、まだ着任して2週間ぐらいですので、今後いろいろご活躍いただいて、我々期待しております。

もう1点、お尋ねしたいのですが、4月10日、この5日ほど前なんですが、旧の東浦町の楠本というところで、里山公園、「ぜんべいの里」というのが開園したのを農業振興部のどなたか、執行部の方、ご存じでしょうか。

神戸新聞にどか一んと載っていましたよ。4月8日の新聞でね。

実は私開園の日に行ってきたんですよ。そこはどんなところかといいますと、2ヘクタールにわたって森林公園を作っているんですよ。

東浦のサービスエリアからずーと上がって行って、元々みかん畑だったらしいんですよ。そこの持ち主は、岩本孝之という元高校の先生、62歳の先生。退職して2年目。ただその方は50歳のときから、始められてね、12年間かけて自分のみかん山、もうへたっているんで、みかん山の中に徐々に一人でですね、100種類、600本の木を、桜とかいろんな、ずーとすごいですよ。1周したらだいたい20分くらいかかるんやね。いわゆる散策コースを作っているんですよ。

その里山公園が味噌だと、私直接先生にちらっとお聞きしたんですよ。その先生は高校の時に新聞部の顧問をされていてね、そこで環境問題に目覚めたらしく、そこから始めたいらしいのですが、そこから里山ということは、非常に大事だという彼は哲学をもって

いらして、みかん畑の中に森林を植えたと。

日本の森林を復活させるんやということで、持論を展開されていましたが、そういう動きについて、農業振興部長、どのような見解をお持ちかお聞きしたいと思います。

○廣内孝次委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（奥野満也） 当然、今現在、鹿が出てくるといえるさ場がないということになりますわね。そこらで、環境、山の環境が変わってきたというようなことがあるので、そこらを今後どのようにですね、専門家を入れた中でやっていくべきかということを考えております。

○廣内孝次委員長 森上委員。

○森上祐治委員 その件について、その里山ということについて、部長なり次長なりはどのような認識をお持ちかお聞きしたいと思います。

○廣内孝次委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（奥野満也） 里山というのは人間のこれから、自然との調和というのがあります。そこらのことを踏まえて、里山の保全というのをやっていかないとはいけません。

県の事業についても里山の事業体系はいろいろございまして、植樹をしたりいろんなことがあります。

今、委員の言われているような公園という中での考え方ですね、いろんなもの、桜を植えたり、いろんなことをして、自然と親しんで環境を守っていくということなんですが、今、農業の方での森林の方では一般的には鹿との共有できるような森林体系のあり方というのしか、今現在は考えておりませんが。

○廣内孝次委員長 森上委員。

○森上祐治委員 森林のあり方ですよ、それについては、今部長おっしゃったような

鹿との共生、動物との共生という、これ日本の森林の今の大きなテーマの1つだと思うのですが、里山が崩壊したから動物の反乱が起こったというのが、だいたい私が読んだ本の、学者の共通した見解なんです。里山が崩壊していると、日本は。だから従来その辺でとまっていた動物たちがそれまで上にいた動物たちが、田んぼや畑に降りてきているということになっている。ということで、なんとか里山を復活させようと、ということが今日本の農業の復活のいわゆる背景のテーマの1つだということを、農業関係の学者、森林学者なんかが言っているんですがね。

その辺で、去年12月に私が質問したときも、造林のことをちらっと前部長がおっしゃってました。それも大事なことだと思うのですが、やはり今の耕作放棄田、遊休地なんかを見ていたら、あの辺のことも活用して、あるいは3月の予算委員会で中村議員が灘のビワ、みかんの畑の非常に厳しい惨状についてお話されてました。

そういうことから考えたら、我々特に、農業振興部におかれましては、里山という観点をどういうふうに復活し、充実させていくかということをもう少しスタンスをおいて、今後の農業振興計画も考えていただきたいということを要望します。

よろしくお願ひしたいと思います。

○廣内孝次委員長 他に。

印部委員。

○印部久信委員 4月1日から淡路島の観光協会と観光連盟ですか、一緒になって、観光協会になったということですが、これ私、あんまりよく理解していないのでお聞きしたいのですが、この観光協会というのはどういう団体ですか。

任意団体ですか、なにか行政がかんだ団体ですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） ご質問がありました、淡路島観光協会が4月1日に発足したわけですが、これについては、従来有りました淡路島観光連盟、淡路市観光協会、五色町観光協会、洲本市観光協会、南あわじ市観光協会がその一本化したという話のなかで、今、ご質問の組織の関係なんです、組織的にはくにうみ協会がございまして、その中に、総務課、企画課がございます。このたび、新しく観光振興課というのをこし

らえまして、そこで淡路島観光協会を持つかたちになります。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 そうしますと、組織的には淡路島観光協会というものは、くにうみ協会の中にあるということでもう理解してよろしいですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） そのとおりでございます。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 このくにうみ協会なんです、くにうみ協会というのは、南あわじ市からも担当者1人派遣されているのですが、くにうみ協会というのは、どのような組織なんですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） くにうみ協会につきましては、昨年4月1日、それまでありました淡路21世紀協会、それと花博記念事業団、これが合併しまして、くにうみ協会というのが昨年4月に発足しております。

その中の理事については、各種団体なり、また淡路の市長会の代表、また今での観光連盟の会長、各種団体の長とかいう団体の理事で構成していると聞いています。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 そうしますと、くにうみ協会の運営資金はどこから出ているのですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） 1つは、くにうみ協会の会費もあるでしょうし、県からも交付金が来ていると。

詳しい内容のくにうみ協会の組織については、存じていませんので、申し訳ございません。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 しかし、くにうみ協会というものは、公の協会でしょ。そんでないと、市から職員派遣なんかしないわけでしょ。

市から職員が派遣しているということは、職員の人件費は市持ちで派遣しているのか、くにうみ協会の中から人件費を出しておるのかどちらですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） 私の方は、くにうみ協会の中の会計は分からないのですが、今入っています淡路島の観光協会、これも市の方から職員を派遣していますし、また今までいました観光協会の職員も雇用しています。

その人件費については、3市の観光協会の、淡路島観光協会負担金ということで、補助金ということで予算計上しています。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 私はその負担金、補助金は後から言うのですが、淡路広域行政という組織がありますね。それは分かるのですが、このくにうみ協会というのはどういう組織で予算はどこから出ているのですか。

県の組織ですか、淡路の行政の外郭団体ですか。

これはいったいどうなっているのですか。まず。

○廣内孝次委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） 非常にややこしい話ですが、最初の財団法人淡路21世紀協会

というのがあったんです。これは財団法人ですけども、各市からは出資はいたしておりませんでした。純然たる民間の財団ということでしたが、運営については、広域行政のほうから運営資金は出ておりました。

それと職員も運営にかかるということで、広域行政に各市から派遣した職員がその仕事をしておったということでした。

今度、県と合併をしました。県の財団と合併をして、くにうみ協会となったんですが、その県の財団には、南あわじ市も出資はしておりました。ですからそれが一緒になったものですから、結果的には南あわじ市も出資の一人だということになってきて、今度は市との関わりが非常に深くなってきた。

先ほど言いましたように、淡路21世紀協会の活動そのものはそのままやっていこうということで、その活動費は広域行政のほうから支出しております。

県からきたものについては、県が独自でやります。お金も持ってきますということで、それを合わせた中で、今、くにうみ協会というのができて、理事長さんは、21世紀協会の会長さんが、副理事長さんは、県の財団のほうから来る。専務理事も県のほうから来る。事務局長は淡路3市のほうから出して欲しいということでしたので、相談をして、南あわじ市からくにうみ協会の事務局長は行っております。

この人件費については、3市で分担しましょうという話です。

今市のほうからは、稲山というのが2年目になるのですが、今後は、そういう正規の職員を派遣できないのではと。今度は淡路市、洲本市ということでいくのですが、そういうことになるのではないかと思いますけども、そこに派遣する職員については、経費は向こうからいただきます。

それと今度は広域行政からくにうみ協会にも職員がいらっております。私どものほうからは1人、行っておったんですが、今度はよその当番になりましたので、今、淡路市のほうからくにうみ協会へ職員を出していただいておりますけども、それについては、3市で人件費を負担をしなければならないという事だと思います。

それと、観光協会の方についても、あくまでも観光協会という民間団体ですので、我々としては、民間のほうで、ぜひやってほしいという話はしておったんですが、やっぱり運営するにはなんとかお助けをいただきたいというふうなことで、いろいろ中は話がいっぱいあったんですが、結果的には各3市からひとつ分担して、市の職員を派遣して欲しいということで、職員を今、南あわじ市から1人、これは観光協会の事務について研修するという名目で今、派遣をして、その仕事をするようになっております。

これは1年限り、南あわじ市が。今度はまたよその市にまわっていきます。

そういうことで、本来は民間でやっていただきたいわけですが、運営がなかなか自前ではやれないというふうなことなので、3市相談のうえ、そういうかたちになっております。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 私はその観光協会に市から補助金を出すということについて、なんら異存はないのです。

ただ、組織的にですね、くにうみ協会の中の1つのセクションに対して、3市が補助金を出しているわけですね。南あわじ市は今回1, 250万円出すことになっている。

これくにうみ協会の1つのポジションの観光協会というところに、3市から結局、なんぼのお金が出ているわけですか。淡路島観光協会。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） 一応、南あわじ市は1, 250万円の予算を計上しています。洲本市も淡路市も全部同じ金額でございます。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 そうしますと、私はこの辺のことは詳しく分からないのですが、昨年度の予算書を見ていますと、観光協会の補助金855万円、淡路島観光連盟負担金164万円ということなんですよ。

まず課長、聞きたいのは、観光協会はどういう人の、どういうメンバーをもって構成されておるのか、観光連盟はどういう方々を組織している組織なのか、そこから話を聞かせてくれます。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） 観光協会につきましては、市内の旅館、また飲食店、ま

た建設業界さん、いろんなメンバーの中で構成をされております。そういう中で、観光連盟につきましては、観光協会の中で役員さんを選出しております。その役員さんが観光連盟のほうに、理事として選出されております。

それで観光連盟の運営につきましては、先ほど委員さん言われておりましたように、各市の補助金、それと各市の観光協会からの負担金ということで運営しております。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 具体的にですね、今の課長の話を書きますと、観光協会の親会が観光連盟のような感じを受けるんですね。21年度の予算を見ていますと、双方に補助金、負担金が出ているんですね。

子と親に補助金を出しているという、おかしいことをしているように思うのですが、これはいかがですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） この観光連盟、観光協会、双方に補助金を出しております。これ各市も出しておったんですが、中身については、淡路全体でやる事業と、市内の観光をPRする事業と2つに分けてあったんですが、その中身について、観光連盟なり観光協会のあり方がわかりにくいという委員さんの指摘どおりのことがありましたので、3市の市長会からも観光協会、観光連盟の1本化が望ましいという要望もありました。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 そうしますと、具体的に淡路島観光協会、観光連盟どちらでもいいのですが、具体的に事業としてどういう事業をしているのか羅列していただけますか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） この3月25日に淡路島協会が設立総会がございました。

その中の議案の中での事業計画の中身ですが、1番は観光客の誘致事業として、「旅チャリ」の運営事業、「旅すごろくスタンプラリー」の実施事業、観光ボランティアの運営事業。「クイーン淡路」の運営事業。観光キャラバンその他、観光客誘致事業の実施。

それと2番目としまして、情報発信事業としまして、各地の観光情報の収集整理。新ホームページの開設、運営。マスコミ、旅行エージェントとの連携。観光新聞の発行。観光ポスター等の作成配布。「おもしろマップ」の作成運営。アンテナショップの設置。その他広報宣伝活動の実施となっています。

それと3番目に観光商品の開発運営事業といたしまして、「淡路島牛丼」プロジェクト。「スパトライアスロン」等の実施。2番として「花みどりフェア」との連携した事業展開の実施。新たな淡路ブランドの開発促進。新商品開発の支援。

4番目に観光基盤整備事業としまして、教育旅行誘致事業。接客コンテスト設置事業。地域イベント支援事業。農商工業と連携した観光推進の促進。都市と農村の交流事業の促進。エコツーリズム、グリーンツーリズムの推進。

5番目にその他観光振興事業としまして、国、県、市、各種団体の観光施策の調整。観光圏整備事業の推進。観光関連受託事業の推進。視察研修、交流事業の実施。新規会員の獲得等組織拡大の推進となっております。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 その事業なんです、新年度スタートして、予算のあれもできていると思うのですが、先ほどの課長の説明では3市から1, 250万円ずつの均等の負担金ということは、観光協会の予算規模は3, 750万円で行っているのですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） 予算の中身につきまして、観光協会の会費収入、これが約1, 100万円ございます。

それと事業収入といたしまして、一般事業の収入、986万円と特定事業の収入1, 569万円が事業収入として、2, 555万円ございます。

それと先ほど言いました市の補助金、3, 750万円等を入れまして、事業規模といたしまして、9, 613万5, 000円となっております。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 それと淡路島観光協会とですね、２年前、今年は２年目になると思うのですが、観光庁が提唱した観光圏。日本に１６カ所ですか、指定されたのは。

この観光圏と淡路島観光協会との関係はどんなようになってくるんですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） 一昨年１０月に全国で１６地区、観光圏の認定を受けました。現在３０地区あるわけですが、当初、県民局が事務局をしています。この事業につきましては、自治体が実施できませんので、観光協会また観光連盟なりが事業実施を行いました。

それで、新たに淡路島観光協会が設立となりまして、事業展開については、淡路島観光協会であるのですが、ただ先ほど委員さんおっしゃられたように、くにうみ協会の中に淡路島観光協会があるのかという発言があった中で、会計上は全部くにうみ協会がするようになりますので、補助金の流れはくにうみ協会を通さないとできないスタイルになっております。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 具体的にこの観光庁で、予算規模を見たら１００億円なかったように思うのですが、その１００億円足らずであったと思うのですが、そのうち観光圏の淡路に指定されて、淡路の受け皿がくにうみ協会でもどこでもいいのですが、実際この観光圏に対する観光庁からの補助金はいくら入っているのですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） 平成２１年度の事業といたしまして、補助対象経費が２，５９３万５，０００円。そのうち補助金が１，０３７万４，０００円となっております。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 これは観光庁からの補助金ですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） そうでございます。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 そうしますと、今年の予算書を見ていると、淡路島観光圏協議会負担金という名目で市から３９８万５，０００円出ているんです。

去年は２１年度は、観光圏施設整備補助金ということで、３６０万円出ているんです。

この観光圏に対しても市から負担金を出しているんですか。観光庁の観光圏の指定を受けて、くにうみ協会が国から今言われた補助金を受けつつ、市からも淡路島観光圏協議会に３９５万５，０００円の負担金を出しているんですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） 平成２１年度につきまして、観光圏の事業を採択をさせていただきます。

その中で、会計上の処理は団体でないとできないということで、自治体も出来ないということなんで、国との補助金の出入り、また事業の出入りについては、全部くにうみ協会の会計を通さないとできないというシステムになっていました。

その中で観光協会で行う、特に２１年度でしたら、ウミホテルの飼育員の道具とか、いろいろありまして、そういうものにつきましては、市から観光協会に納めまして、そこから観光協会からくにうみ協会のほうに納めると。

もう１つは淡路全体で行う事業については、淡路島観光連盟にお金を納めまして、そこからくにうみ協会に納めるという２つのシステムでございました。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 実際、淡路島が観光圏に指定されて、観光庁からの補助金をもらって、

実際、今年で３年目に入るんでしょうか、それはともかくとして、具体的に淡路島の中で観光圏の指定を受けて、これだけの補助金をもらって、どのような事業が行われているんですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） 観光圏の事業については、平成２１年度が最初の補助金の年でございます。

その中で事業内容としましては、「淡路島のおもてなしの心養成事業」として、補助対象経費で５０万円、補助金が２０万円ということになっております。

あと、淡路体験宿泊プランということで、事業費が２，７４０万円。これについては、南あわじ市が行っています、ウミホテル、ヤマホテルの事業が入っています。

それと「高速料金引き下げ、さあ淡路島へ行こう宿泊キャンペーン事業」。これについては、事業費が８０万円。

「淡路島観光圏おもしろマップ作成事業」。これが２１０万円。

大きいのは「御食国淡路情報受信発信体制の構築」ということで、これが１，２６０万円の事業費で一番大きい事業でございます。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 この観光庁が全国に１６カ所当初、観光圏を指定して、今現在３０数カ所ということなんですが、これは国はこの地域はいわゆる観光特区というような扱いで観光産業が今後ますます発展するように、国が特区で指定したというふうを受け止めていいんでしょう。これは。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） そのとおりでございます。

国の国土交通省の観光庁の観光圏の中には２泊３日の滞在型を推進してもらうような事業展開をすると。

それともう一つは、淡路島の中で、いろいろな観光団体、観光連盟、あった中で、淡路

はやっぱり一本にしてもらわないと、これからの観光はできませんよという指導もありまして、一本化がならない場合は、もう観光圏の認定を外しますよと、そこまで言われたところでございます。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 それと、この観光協会にこれは関係していると思うのですが、この話、観光圏の話はそれでよいとしてですね、ミス淡路というのを選任しているのは淡路島観光協会ですね。ですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） はい。その当時は淡路島観光連盟で選出しました。
それで観光連盟がなくなりましたので、引き続き淡路島観光協会になると思います。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 このミス淡路を毎年選出して、いろんなイベントにその方々に出席していただいて、華を添えるということもあるんだろうし、淡路島をPRをするということとでやっておると思うのですが、これはいいことだと思っています。

淡路の観光を売り出すことにも大きな役割を担っていると思うのですが、一般の方からちょっと聞かれることがあるのですが、ああいう方をイベントに呼ぶ場合は、どこにお願いしたらいいのか。またどういう場合にそういう方が来ていただけるのかということを知りたいですね。

具体的に今の話を聞いていたら、くにうみ協会が窓口になっていくと思うのですが、何かああいう方が出席する場合は、淡路島の中のイベントでこういうものですよと、大きな枠の内部で規約と言うのですか、何かあるんですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） 確か取り扱いについては、要項なり、規定があると思う

のですが、手持ちでは資料を持っていないのですが、私たちもイベントをするときは、その当時、観光連盟のほうで要請して来てもらうことがございました。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 昨年度、21年度で結構なんですけど、南あわじ市の中で、イベントにおいて要請したことは何度ぐらい、どのようなイベントに対して、何度ぐらい要請されましたか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） うちで要請した事業につきましては、これも観光連盟と同事の事業なんですけど、昨年の4月1日の島開き。これがなないろ観前でございました。ちょうどそのときにクイーン淡路さん来てもらいまして、今年もあったんですが、たまたま津波の関係で途中で取りやめたわけなんですけど、ああいう事業については、お越しいただきました。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 これは観光協会に加入している関係の方からの申し出に対して、その要請に答えているんですか。それとも市から要請した場合、民間のイベント、あまり市の観光と兼ね合いが薄いようなところで、それは要請することも少ないのですが、どの辺までが要請できるといいますか、応えてくれるんですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） これも資料を持っていないのですが、淡路全体のようなイベントの取組のときの要請になってくるのかなと思っております。

○廣内孝次委員長 暫時休憩いたします。

その間にちょっと詳しく調べていただいて、答弁していただくということでよろしいで

しょうか。

それでは2時20分まで休憩します。

(休憩 14時10分)

(再開 14時20分)

○廣内孝次委員長 再会いたします。

それでは引き続き。今の続きでします。

商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） 先ほどのクイーン淡路の出役の関係なんですけども、今問い合わせしているんですが、まだ来ていませんので、また後日報告させていただきたいと思います。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 後は個人的に。議長の指示に従いますので。

ちょっとレベルの低い話で恐縮なんですけど、クイーンというのは、ああいう方については、観光協会は1年間、どのような対応をされているんですか。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） これは淡路島観光連盟なり、淡路島観光協会上部組織でやっているわけなんですけど、その運営に対しては、出役みたいなのが出ているのかなという気がありますけども、聞いておりますのは、こちらに出向いてこられたときの日当とか、旅費は主催者側で持つという話は聞いております。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 私が聞いているのはそれもなんなんですけど、クイーン淡路になった

方々に対して1年間なんらかの形で365日拘束ということもないのですが、ある意味で拘束されるわけなんです。協会としてその方々に対して1年間に、ミスインターナショナルなら賞金何千万円というようなことを聞くんですが、淡路島観光協会はその方々にどんなような待遇をしているんですかということだけお聞かせ願いたい。

○廣内孝次委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（興津良祐） 先ほどの予算の中に事業ですけども、クイーン淡路の運営事業ということで予算化をしております。その予算化が179万円でその方に全体行くかどうか分かりません。

○廣内孝次委員長 印部委員。

○印部久信委員 このことはこれで終わります。

○廣内孝次委員長 他に。
阿部副委員長。

○阿部計一副委員長 産建はレディーファーストでございますので、今回新しい女性の課長がおいでになったということで、企業誘致課長というのはよく分かるんですが、企業経営課長というのは具体的にどういうお仕事をされているのでしょうか。

○廣内孝次委員長 企業経営課長。

○企業経営課長（江本晴己） 失礼します。

企業経営課におきましては、21年度より公営企業会計のほうへ移行しまして、今年度決算初年度となっております。

企業経営課のほうでは、健全なる経営のために適切な予算を作成し、そしてまた持続的な経営のために決算を行っております。

それから使用料の徴収の方につきましてもこのたび4月から淡路広域水道企業団のほうで統合しまして、下水道料金のほうは企業経営課のほうで管理しておりますが、料金の

徴収に際しましては、広域水道企業団のほうに委託して行っております。

そしてもう1つ、分担金及び負担金の算定、徴収のほうをおこなっております。

簡単ですが、以上です。

○廣内孝次委員長 阿部副委員長。

○阿部計一副委員長 大変よく分かりました。

終わります。

○廣内孝次委員長 他にございませんか。

議長。

○議長（川上 命） 幼稚なことを聞くのですが、自分は百姓をしておきながら、今回のこの民主党の戸別補償よね。その中で、青刈りでこの間ちょっと相談に来たんですが、青刈りで田植え6月に植えて、8月頃青刈りして、その青刈りで8万円という補償がついた中で、交渉は4万円で刈り取って、ちゃんとするから、4万円は自分の懐に入って、4万円は業者というような形で、それはちょっと高いやないかという中で3万円というなかで交渉したんですが。

減反、他用途米のなかで、他用途米3,000ぐらいとしたら、4、5万円ぐらいしかない、手取りが。百姓屋としらたら、それは肥も薬もやって手取りがそんだけ。

青刈りは肥もしないで、そのまま植えてほっておいて、業者に刈ってもらおうと。そして3万円で、5万円当ると。

そういったことは、簡単に他用途米を作っているやつをそいつに振り替えてもできますよという、そういうことはちゃんと市の方で、どうですか、このことについて詳しく教えていただきたい。

○廣内孝次委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（太田孝次） 今、転作のことで聞かれているわけですが、8万円というのは、あくまでも新規事業米ということで、米粉用米と飼料用米とWCS稲ということで、前々から言っていますとおり、南あわじ市におきましては、WCS稲というのは

従来からありますので、こうしたことは可能であるかと思います。

これは乳熟期に刈り取って、ラップをして、発酵して、そうしたものについては、8万円の交付金を与えますよと。

青刈り稲というものについては、あくまでも飼料作物ということで、2万8千円でございます。

以上です。

○廣内孝次委員長 議長。

○議長（川上 命） 今、課長と業者が言っていることが違うし、私もこの間、一般の会合の中で、そういったことを言ったんですが、青刈りをしてすぐ発酵してバラケとかそういったことをするというので、8万円。「他用途米をすぐ青刈りに換えてくださいよ、そんで農協のほうで申し込みができますよ」と簡単に言うのですが、「それもちゃんと補助金と市とできておりますよ」というようなことを説明して、私もまだはっきりしないので、私もちょっとはっきりしないので今日、聞かないといけないと思っていたけど、業者が言うのと、課長が言うのと全然違うなあ。

○廣内孝次委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（太田孝次） 他用途米というのは、加工用米のことと思うのですが、加工用米については、2万円の交付金がありますよ。そして、農協のほうは3,000袋、これは可能ですよというような内容です。

それで途中から青刈り稲を他用途米に換えるとか、そうしたことは・・・。

○廣内孝次委員長 議長。

○議長（川上 命） 私が言っているのは、要は今のこの間まわってきた紙に他用途米40%やから、他用途米をある程度作りたいということを申し込んでいるのです。

しかし、そういった「8万円と青刈りを、そういったことができますよと。3万円に刈らせていただいた後、あと5万円は入りますよ」という宣伝をしているわけよな。

そういったことは果たして、それはちょっといいなと思って、一般の人にもこういった

ことがありますよと、確認をしないことには、百姓屋の人をだましたらいかんのやから、そういったことはないんやな。

○廣内孝次委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（太田孝次） 先ほど言いましたように8万円については、例えばWC Sの話だと思うのですが、それについては、8万円の交付金は農家の人に交付をしますよというのは確かなことです。

○廣内孝次委員長 議長。

○議長（川上 命） 8万円はあるんやね。

青刈りをその人に頼んで、8万円はすっと自分の懐に入って、払えるわけやな。それでできるわけやな。間違いないな。

○廣内孝次委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（奥野満也） 青刈りでは、8万円は出ません。

ラッピングと言って、白く巻いたやつ。発酵稲、乳熟期って稲が出てきてちょっとさわったら乳が出るというようなときに、刈り取ってラッピングした場合には、発酵稲ということで8万円ですすよと。

ただの青刈りだけだったら、飼料作物ですよということで、8万円は出ません。

○廣内孝次委員長 議長。

○議長（川上 命） そうしたらなんやね。結局青刈り、減反、水割りせんと稲を植えてくださいよ。肥しなくても薬しなくてもいいですよということは、穂が出た時点で刈ると。そしてラッピングすると。それは3万円ですすよという。買い取ってラッピングはな。結局5万円は百姓屋の懐に入りますよと。

間違いないな。

○廣内孝次委員長 農業振興部長。

○農業振興課長（奥野満也） ただし、その時に酪農家とか、畜産家と契約しないことには、牛もいないのに、したから金くれるかといってもそれは無理です。

○廣内孝次委員長 議長。

○議長（川上 命） 無理ですと言っても、その業者が契約してちゃんとしますよと言ってるんです。業者が。

しかしそれを取り尽くす人もいるからな。5万円入れば3万円で。8万円は業者とかに入るのだったら、信用はならんけども、自分のところに入ってくるということで、3万円を渡すと。

○廣内孝次委員長 暫時休憩します。

（休憩 14時35分）

（再開 14時40分）

○廣内孝次委員長 再開いたします。

他になにかございますか。

阿部副委員長。

○阿部計一副委員長 あくまで噂なんですけど、中央政界とかなり近い人の話で、前の土地改良区の国の予算が半減ということで、これはニュースとか、テレビ報道の話なんですけど、小沢の中の確執が大きいんやということで、現在こういうかたちになっているけども、おそらく補正で約3,000億円ぐらいが上澄みされるんでないかということが言われているのですが、そういう情報は市の方にまだ伝わっていませんか。

○廣内孝次委員長 農地整備課長。

○農地整備課長（大瀬 久） 土地改良事業の国の予算については、対前年で36.9%でしたか、そういうレベルで今工事させていますけども、これは直轄事業も含んだ予算ということで、国が優先的にはねるというか、県営のほうにまわってくるのは、20%を切るレベルだと思います。

今、現在、近畿農政局のほうでも繰り越し予算とかいうのを活用してですね、40%ぐらいは平均的に確保しているという状況ですが、残りについては、現在予算化されています1,500億円の農山漁村特例交付金ですか。交付金事業が1,500億円ありまして、その配分がまだ決まっておりません。

今、見込めるのはその程度でございまして、3,000億円とかおっしゃる予算については、まったく情報が入っておりません。

○廣内孝次委員長 阿部副委員長。

○阿部計一副委員長 これは噂なんですけど、かなり近い線の噂なので、民主党も今評判が悪いので、そういう補正でおそらく組むんと違うかという情報が入っております。

それと、農地水なんですけど、これ時限立法ですけども、来年ですか、切れると思うのですが、この農地水については、継続されるか、されないか。これは政権交代していますので、その辺の情報はいかがですか。

○廣内孝次委員長 農地整備課長。

○農地整備課長（大瀬 久） ご指摘の農地水につきましては、前年度並みの予算が確保されています。ただし、事業評価の中山間の交付金と事務的に一緒にしたらどうかという意見がございまして、事務費については、少し削減がされるということでございます。

○廣内孝次委員長 阿部副委員長。

○阿部計一副委員長 これも大変ありがたい、農家にとっては、補助金をいただいてやっているということで、政権が変わって、時限立法で変わる可能性もあると思うのですが、その辺の情報をできたら早めにキャッチしてほしいなど。

これは要望で終わります。

○廣内孝次委員長 他に何かございませんか。

それでは、所管事務調査は終わります。

所管外でその他何かございませんか。

ないようでございますので、このあたりで産業建設常任委員会を閉会したいと思います。

長い時間ありがとうございました。

それと、報告事項が商工観光課からありますので、課長よろしくお願いします。

○商工観光課長（興津良祐） 報告事項といたしまして、先ほど観光協会が淡路島観光協会 1 本になりまして、くにうみの中で今、組織されています。

その中で、1 2 月審議していただきました足湯の指定管理につきまして、南あわじ市観光協会がなくなりまして、くにうみ協会と 4 月 1 日に指定管理の契約をしたことを報告させていただきます。

○廣内孝次委員長 他に報告事項はありませんか。

ないようですので、これで閉会したいと思います。

（閉会 1 4 時 4 5 分）

委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

平成 22 年 4 月 14 日

南あわじ市議会産業建設常任委員会

委員長 廣 内 孝 次